

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

伝統校として受け継いだ三丘スピリット（文武両道、自主自立、切磋琢磨）のもと、高い理想、深い叡智、重い使命を抱き社会に貢献する志を持った発想力豊かなグローバルリーダーを育てる学校。

1 自ら課題を発見し豊かな創造性と論理的思考力を持って解決策を探る力を育む。

2 社会の様々な事象に対して当事者意識を持ち、異文化共生の精神を理解した上で他者と協働できる人材を育てる。

3 確かな学力を育成し、併せて国内外で「ホンモノ」と出逢う教育機会を提供することにより、生徒が自らのキャリアを描く力を育む。

4 機動的な学校運営体制を一層充実させ、教職員の弛まぬ資質・能力の向上に取り組み、教育活動をはじめとする様々な活動の充実・活性化を図る学校。

2 中期的目標

1 自ら課題を発見し豊かな創造性と論理的思考力を持って解決策を探る力の育成

(1) 学校設定科目「Creative Solutions(以下) CSⅠⅡ」の充実

ア 探究学習に関する高い授業満足度

「CSⅠ」「CSⅡ」満足度 90%以上を維持 (R3:CSⅠ93%・CSⅡ90%、R4: CSⅠ88%・CSⅡ88%、R5: CSⅠ94.8%・CSⅡ89.9%)

(2) 読書に関する指導の充実により、自ら課題を発見する力や創造性・論理的思考力を向上

ア 教科指導を通じて読書量の向上に取り組み、1,2年生において各々年間 10 作品以上

(R3: 1年 18 作品/2年 10 作品、R4: 1年 16 作品/2年 13 作品、R5: 1年 14 作品/2年 8 作品)

(3) 生徒主体の活動を充実することにより自ら課題を発見し解決策を探る力を育成

ア 文化祭、体育祭等すべての生徒会主催行事及び部活動を生徒主体で企画・運営させることにより、課題に直面した時も自ら解決策を探る力を育成する

「文化祭、体育祭や部活動において生徒は自主的に活動している」(学校教育自己診断) 肯定率 90%以上を維持 (R3:83.2%、R4:77.1%、 R5: 95.8%)

イ 教科指導を含む教育活動全般の中で三丘スピリットに謳われている「自主自立」の重要性を指導

「自主自立(自律)を尊重する伝統は活かされている」(学校教育自己診断) 肯定率 85%以上を維持 (R3:79.1%、R4:81.5%、R5: 85.0%)

ウ 生徒が主体的に運営する部活動を通じて課題を発見し協働して解決する力を育成

入部率 90%以上を維持 (R3:95.3%、R4:96.5%、 R5:102.0%)

2 社会の様々な事象に対して当事者意識を持ち、異文化共生の精神を理解した上で他者と協働できる人材の育成

(1) 異文化理解の基礎となる「4技能を育成する英語授業」の実践

ア 英語科教員が協働して教材を開発するなど、4技能を育成する英語授業を構築

「コミュニケーション等に必要な英語を学ぶ機会がある」(学校教育自己診断) 1,2年生肯定率 80%以上を維持 (R3:82.3%、R4:80.0%、 R5: 82.3%)

(2) 社会の様々な事象に対して当事者意識を持つことをめざした教育の充実

ア 人権・環境・福祉等に関する教育の充実

「人権、環境、福祉について学習する機会がある」(学校教育自己診断) 肯定率 80%をめざす (R3:79.2%、R4:62.9%、 R5: 62.6%)

イ 学校設定科目「CSⅠ」指導内容の充実

心理的安全性や協働についての学習を深め、マルチプルインテリジェンスを用いたグループ編成で協働できる集団を構築

(3) グローバルリーダーとして異文化共生の精神を理解するために必要な海外研修の充実

ア 米国リーハイ大学・国連研修の再開に向けた調整

イ オーストラリア語学研修の実施と内容充実

ウ フィリピン研修の実施と内容充実

エ 諸外国から来日した高校生との交流など米国領事館や大阪観光局と連携した事業の実施と内容充実

「国際交流に関する取り組みが充実している」(学校教育自己診断) 肯定率 90%をめざす (R3:70.8%、R4:73.8%、 R5: 90.5%)

3 確かな学力を育成し、併せて国内外でホンモノと出逢う教育機会を提供することにより、生徒が自らのキャリアを描く力の育成

(1) 第一線で活躍する研究者など斯界のトップランナーに触れる機会の充実

ア 三丘セミナー、体感校外学習、NASA 研修 (SSH 事業)、実践科学実験の充実

イ 京都大学キャンパスガイド、大阪大学ツアー、SSH 東京方面体感学習、大阪大学医学部体験を含む大学訪問や医療系体験学習等の機会の充実

「三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている」(学校教育自己診断) 肯定率 90%をめざす (R3:80.7%、R4:86.4%、 R5: 87.3%)

(2) 3年間を見通した進路指導プログラムに沿った進路指導・キャリア教育の充実

ア 進路講演会・懇談会・進路交流会・進路ホームルーム等を充実し進路指導部と各学年が連携した進路指導・キャリア教育を展開

「進路情報提供や進路交流会開催など適切な進路指導を行っている」(学校教育自己診断) 肯定率 90%以上を維持 (R3:91.6%、R4:92.4%、 R5: 92.4%)

「学校生活を通じ将来の生き方を考える様々な機会がある」(学校教育自己診断) 肯定率 90%以上を維持 (R3:88.5%、R4:86.1%、 R5: 90.5%)

(3) 高い志の獲得と希望進路実現

ア 質の高い授業及び信頼関係に基づいた適切な進学指導により第一志望を貫き希望進路実現をめざすスタンスを徹底

イ 進学講習及び実践的科学実験など高い志の実現のために学習意欲を喚起する取組を充実

5 大学(東大・京大・阪大・神戸大・大阪公大)＋医学部医学科合格率 55%以上をめざす (R3:38.0%、R4: 53.5%、R5:40.4%)

4 機動的な学校運営体制を一層充実させ、教職員の弛まぬ資質・能力の向上に取り組み、様々な活動の充実・活性化を図る

(1) 機動的な学校運営体制の充実

ア 教職員間の情報共有をより一層推進するとともにすべての教職員が学校運営の主要な局面の判断に主体的に関与できるシステムを構築

イ 教職員が働きやすく意欲的に取り組める職場環境を整備

ウ 安全衛生委員会の毎月開催と教職員の働き方改革の推進

「学校経営に、教職員の意見が反映されている」(学校教育自己診断・教職員) 肯定率 80%をめざす (R3:64.7%、R4:70.4%、R5: 82.5%)

「学校は、教職員が意欲的に取り組める環境にある」(学校教育自己診断・教職員) 肯定率 90%をめざす (R3:67.6%、R4:88.9%、 R5: 87.5%)

(2) 教職員の資質・能力の向上

ア 授業力、進路指導力、生徒指導力、保護者対応力、人権に関する知識と指導力・対応力等を教員力と位置づけ、その向上を図る

イ 三究会や校長・教頭による校内研修を充実させ教職経験年数の少ない教員の教員力を向上

ウ 教員がカウンセリングマインドを持って生徒と接するとともに教育相談体制を整備し生徒支援を充実

エ 三丘生としての自覚のもと生活を自己管理し、指示を待たずに主体的に判断して行動できる生徒の育成

「満足できる授業が多い」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率 80%をめざす (R3:83.2%、R4:77.1%、R5: 81.9%)

「悩みや不安を抱えた時、必要に応じて教育相談やカウンセリングを受けることができる」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率 80%をめざす

(R3:72.4%、R4:68.0%、 R5: 72.9%)

「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率 70%をめざす

(R3:60.9%、R4:58.3%、R5: 66.3%)

「生活指導における先生方の指導は適切である」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率 80%をめざす (R3:77.1%、R4:75.4%、R5: 78.7%)

「人権、環境、福祉について学習する機会がある」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率 80%をめざす (R3:79.2%、R4:62.9%、R5: 62.6%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
〈生徒〉 全23項目中前年度比で肯定的意見が増加した項目は18項目（78.3％）。その18項目中2年連続で肯定的意見が増加している項目は15項目（88.3％）と極めて多い。中でも、本年度大きな伸びを見せた項目は次のとおり。 「満足できる授業が多い」（85.6％＋3.7P） 「人権・環境・福祉について学習する機会がある」（86.4％＋23.8P） 「学校は生徒の健康管理や健康指導を適切に行っている」（85.1％＋3.8P） 「先生はいじめで困っていることに真剣に対応してくれる」（72.4％＋6.1P） 「土曜授業は学習時間確保に役立っている（役立った）」（52.4％＋3.9P） 〈保護者〉 全26項目中前年度比で肯定的意見が増加した項目は19項目（73.1％）。その19項目中2年連続で肯定的意見が増加している項目は14項目（73.7％）と多い。中でも、本年度大きな伸びを見せた項目は次のとおり。 「満足できる授業が多いと聞いている」（73.1％＋4.4P） 「人権・環境・福祉について学習する機会がある」（59.0％＋5.8P） 「学校は生徒の健康管理や健康指導に取り組んでいる」（74.9％＋4.9P） 「学校は様々な危険防止についての指導に取り組んでいる」（66.6％＋9.2P） 「生徒のプライバシーは守られている」（81.0％＋4.9P） 〈教職員〉 全39項目中前年度比で肯定的意見が増加した項目は21項目（53.8％）。その21項目中2年連続で肯定的意見が増加している項目は5項目（23.8％）である。中でも、本年度大きな伸びを見せた項目は次のとおり。 「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導である」（88.9％＋6.4P） 「美化に努め教育環境の整備に心掛けている」（86.7％＋4.2P） 「学校行事魅力化のための工夫・改善が行われている」（93.3％＋5.8P） 「人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導を行っている」（91.1％＋3.6P） 「学年等での協力体制が整っている」（88.9％＋3.9P） 「事故・災害等の場合の役割分担が明確化されている」（86.7％＋4.2P） 「生徒の個人情報 は完全に管理されている」（93.3％＋15.8P） 「管理職は教職員への情報提供に努めている」（97.8％＋7.8P） 「施設・設備について適切に点検や管理が行われている」（88.9％＋8.9P） 【分析】 肯定的意見の割合を総合的にみると、生徒が82.5％、保護者が77.1％、教職員が85.5％といずれも非常に高い。項目別では、授業への満足度が高いことや人権教育に対する評価が高いこと、健康管理や危険防止・プライバシー保護等への信頼感の厚さが伺える。今後とも、学校一丸となった取組を推進したい。	第1回（7月2日） ○ 令和5年度学校評価及び令和6年度学校経営計画について ・学校評価に読書量の項目がある。読書量を増やすことは勿論大事だが、これからは読書スピードを上げることも重要。今後は、読書に関する項目について、他の項目に変更することも含めて検討してみてはどうか。 ○ 生徒の希望進路実現について ・3年生に関する報告を聴いて進路に対する意識が変化してきていることはわかった。京都大学を志望する生徒が希望進路を変更することはほとんどないが大阪大学を志望する生徒が大阪公立大学に変更することはあるという状況もわかった。進路指導をしていく中で進路意識の醸成は極めて重要である。 ○ SSH、SGHの活動について ・これだけのSSH活動を支えていくには相当のスキルが必要。学校だけで完結せず外部との連携が重要である。 ・コロナ禍の時はアメリカ研修をオンラインで行っていた。円高等の影響による費用の関係でこの研修を中止しているのなら、オンラインによる復活を考えてみてはどうか？ 第2回（10月22日） ○ 授業アンケート結果について ・授業アンケート結果と成績との相関関係について確認しておくべき。 ○ 生徒が志望する大学について ・関西圏の大学を志望する生徒が多いとの説明であったが、広く全国や世界に目を向けさせることが必要なのではないか。 ・フィリピン研修に参加した生徒が、下級生に向けて成果をアピールする機会を設けてはどうか。 ・進路交流会に、もっと多くの地方国公立大学生を呼んでみてはどうか。旅費や時期の問題があるのならオンラインも視野に入れてみてはどうか。 第3回（1月24日） ○ 学校教育自己診断結果について ・広報活動の充実が結果に影響を及ぼしているのではないか。 ・入学した生徒が満足して卒業していける学校であり続けてほしい。 ○ 共通テスト後の志望大学について ・志を高く保って受験する大学を決めているのは良いこと。 ○ SSH中間評価について ・高く評価してもらっているのは嬉しいこと。第4期に向けて更なる努力を。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容		評価指標〔R5年度値〕	自己評価
1 自ら課題を発見し豊かな創造性と論理的思考力を持つて解決策を探る力の育成	（1）学校設定科目「CS（Creative Solutions）Ⅰ」及び「CS（Creative Solutions）Ⅱ」の充実	ア	探究学習に関する高い授業満足度 ・先進校の探究活動について研究 ・SSH第4期に向けた課題の整理 ・学校外のコンクール等への積極的参加 ・観点別評価の総括と評価方法の改善	ア 「CSⅠ」及び「CSⅡ」満足度90％以上（R5：92.4％） 先進校視察2校以上（R5：1校）	ア 92.5％（○） 1校（△）
	（2）読書に関する指導の充実により、自ら課題を発見する力や創造性・論理的思考力を向上	ア	見聞を広め知識量を増やすことにより、自ら課題を発見する力や創造性・論理的思考力を向上 ・教科指導における読書指導の充実	ア 教科指導を通じて読書量の向上に取り組み、1,2年生において各々年間10作品以上	ア 1年生：16作品 2年生：9作品（○）
	（3）生徒主体の活動を充実することにより自ら課題を発見し解決策を探る力を育成	ア	文化祭、体育祭等すべての生徒会主催行事及び部活動を生徒会主体で企画・運営させるなど生徒自治を徹底する。 ・生徒主体の行事運営の徹底 ・生徒提案による学校環境改善の実現	ア 「文化祭、体育祭や部活動において生徒は自主的に活動している」（学校教育自己診断）肯定率90％以上（R5：95.8％）	ア 肯定率95.2％（○）
		イ	教科指導を含む教育活動全般の中で三丘スピリットに謳われている「自主自立」の重要性を指導 ・生徒の主体性を尊重した生徒指導 ・生徒が自らの学力を把握できる指導	イ 「自主自立（自律）を尊重する伝統は活かされている」（学校教育自己診断）肯定率85％以上（R5：85.0％）	イ 肯定率85.7％（◎）
		ウ	生徒が主体的に運営する部活動を通じて課題を発見し協働して解決する力を育成 ・理系3部（理化・生物・天文）の研究活動促進 ・音楽系部活動を中心とした地域連携の促進 ・部活動の一環としての学校広報活動の展開	ウ 入部率95％以上（R5：102.0％） 部活動地域連携回数3回以上（R5：2回） 部員の学校説明会参加2回以上（R5：1回）	ウ 入部率102.0％（◎） 地域連携3回（○） 学校説明会2回（○）

府立三国丘高等学校

2 社会の様々な事象に対して当事者意識を持ち、異文化共生の精神を理解した上で他者と協働できる人材の育成	(1) 異文化理解の基礎となる「4技能を育成する英語授業」の実践	ア 英語科教員が協働して教材を開発するなど、4技能を育成する英語授業を構築 ・教員間の授業見学の促進 ・教材データ等の共有促進	ア 「コミュニケーション等に必要な英語を学ぶ機会がある」(学校教育自己診断) 肯定率 80%以上 (1,2年生) (R5：82.3%)	ア 肯定率 86.0% (◎)
	(2) 社会の様々な事象に対して当事者意識を持つことをめざした教育の充実	ア 人権・環境・福祉等に関する教育の充実 ・教職員人権研修の充実 ・生徒対象の研修・講義等の充実	ア 「人権、環境、福祉について学習する機会がある」(学校教育自己診断) 肯定率 70% (R5：62.6%)	ア 肯定率 86.4% (◎)
	(3) グローバルリーダーとして異文化共生の精神を理解するために必要な海外研修の充実	ア 米国リーハイ大学・国連研修再開に向けた調整 イ オーストラリア語学研修の実施と内容充実 ウ フィリピン研修の実施と内容充実 エ 諸外国から来日した高校生との交流など米国領事館や大阪観光局と連携した事業の実施と内容充実	ア～ウ 「国際交流に関する取り組みが充実している」(学校教育自己診断) 肯定率 90% (R5：90.5%)	ア～ウ 肯定率 90.6% (○)
3 確かな学力を育成し、併せて国内外でホンモノと出逢う教育機会を提供することにより、生徒が自らのキャリアを描く力の育成	(1) 第一線で活躍する研究者など斯界のトップランナーに触れる機会の充実	ア 三丘セミナー、体感校外学習、NASA 研修 (SSH 事業)、実践科学実験の充実 ・三丘セミナーの内容充実 (研究者の積極的招聘) ・体感校外学習の内容充実 (第一線の研究に接続) ・NASA 研修実施時期変更と内容のグレードアップ ・ループリックによる定量的な評価 ・ホームページで「探究ハンドブック」を公開 ・ホームページで「実践科学実験教材集」を公開 イ 京都大学キャンパスガイド、大阪大学スタディツアー、SSH 東京方面体感学習、大阪大学医学部体験を含む大学訪問や医療系体験学習等の機会の充実	ア・イ 「三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている」(学校教育自己診断) 肯定率 90% (R5：87.3%) 「探究ハンドブック」「実践科学実験教材集」を学校ホームページ上に公開	ア・イ 肯定率 89.1% (△) 公開 (○)
	(2) 3年間を見通した進路指導プログラムに沿った進路指導・キャリア教育の充実	ア 進路講演会・懇談会・進路交流会・進路ホームルーム等の充実 イ 進路指導部と各学年が連携した進路指導・キャリア教育の展開 ウ 探究活動を通じて獲得した主体的に学び課題解決に取り組む姿勢を教科学習にも活かす取組 ・教科指導の在り方に関する検討 ・先進校の取組とその成果に関する調査	ア・イ 「進路情報の提供や卒業生との進路交流会開催など、適切な進路指導を行っている」(学校教育自己診断) 肯定率 90%以上 (R5：92.4%) 「学校生活を通じ、将来の生き方を考える様々な機会がある」(学校教育自己診断) 肯定率 90%以上 (R5：90.5%) ウ 調査及び検討を実施し年内に取り纏め	ア・イ 肯定率 93.2% (◎) 肯定率 90.8% (◎)
	(3) 高い志の獲得と希望進路実現	ア 質の高い授業及び信頼関係に基づいた適切な進学指導により第一志望を貫き希望進路実現をめざすスタンスを徹底 イ 高い志を獲得する契機となる進学講習や実践的科学実験、探究学習などの取組を充実	ア・イ 5大学 (東大・京大・阪大・神戸大・大阪公大) + 医学部医学科進学率 55%以上をめざす (R5：40.4%)	ア・イ 32.9% (△)

府立三国丘高等学校

4 機動的な学校運営体制を一層充実させ、教職員のたゆまぬ資質・能力の向上に取り組み、様々な活動の充実・活性化を図	(1) 機動的な学校運営体制の充実	ア 教職員間の情報共有をより一層推進するとともに、すべての教職員が学校経営の視点を持って業務を推進することをめざす	ア 「学校経営に、教職員の意見が反映されている」(学校教育自己診断・教職員) 肯定率 80% (R5： 82.5%)	ア 肯定率 73.3% (△)
	(2) 教職員の資質・能力の向上	イ 特に緊急時にあつては管理職と教職員の連携を緊密にし、時宜を逃さない対応を心掛ける	イ 「学校は、教職員が意欲的に取り組める環境にある」(学校教育自己診断・教職員) 肯定率 90% (R5： 87.5%)	イ 肯定率 82.2% (△)
		ウ 働き方改革を進め超過勤務時間の縮減を図るとともに、教職員が業務に意欲的に取り組める職場環境を整備する。その一環として部活動指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。	ウ 教職員一人あたりの超過勤務時間数で前年度より 5 %削減をめざす。 (R5：37.2 時間) 1 月まで	ウ 超勤時間数 39.1 h (△) (12 月までの月平均)
		エ 安全衛生委員会の毎月開催	エ 安全衛生委員会の毎月開催(R5：12 回/年)	エ 毎月開催達成 (○)
		ア 授業力、進路指導力、生徒指導力、保護者対応力、人権に関する知識と指導力・対応力等を教員力と位置づけ、その向上を図る	ア 「人権、環境、福祉について学習する機会がある」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率 70%をめざす (R5： 62.6%) 再掲	ア 肯定率 86.4% (◎)
		イ 三研究会や校長・教頭による校内研修を充実させ教職経験年数の少ない教員の教員力を向上	イ 「学校は、教職員が意欲的に取り組める環境にある」(学校教育自己診断・教職員) 肯定率 90% (R5： 87.5%) 再掲	イ 肯定率 82.2% (△)
			「満足できる授業が多い」(学校教育自己診断・生徒) 80% (R5： 81.9%)	肯定率 85.6% (◎) ※ 過去 16 年間で最高値
		ウ 教員がカウンセリングマインドを持って生徒と接するとともに教育相談体制を整備し生徒支援を充実 ・生徒対応に関する実践的研修会の開催	ウ 「悩みや不安を抱えた時、必要に応じて教育相談やカウンセリングを受けることができる」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率 75%をめざす (R5： 72.9%)	ウ 肯定率 74.6% (○)
			「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率 70% (R5： 66.3%)	肯定率 72.4% (◎)
		エ 三丘生としての自覚のもと生活を自己管理し、指示を待たずに主体的に判断して行動できる生徒の育成	エ 「生活指導における先生方の指導は適切である」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率 80% (R5： 78.7%)	肯定率 76.8% (△)